

ぐるぐる回る大いなる意識、日の出から日の入りまで

グルマーイの誕生日のお祝いの報告

2018 年 6 月 24 日

シュリー・ムクターナンダ・アーシュラム

第 6 部

2018 年のグルマーイの誕生日のお祝いに参加した人たちより

笑いを送る

そして、スワーミ・イーシュワラーナンダのサツツァングについての感動的な講話の後、グルマーイは私たち全員に近くに座っている人に向かって彼女に代わって感謝を伝えてほしいと言いました。グルマーイは、心の中でそうしている——つまり私たち全員に感謝している——と説明しました。でも、もし今日ホールにいる全員に一人一人お礼を言ったなら、午前中ずっとかかってしまうだろう——もしかしたらそれ以上かもしれない！——と言いました。私たち全員が誕生日のお祝いのスケジュール作りに貢献したので、グルマーイに代わってお礼を言うというこの最も素晴らしいセーヴァーをささげることに私たちを招いたのです。それは、私たちを結び付けるためのグルマーイの方法でした。

参加者から発せられるホールの中に行き交うエネルギーは、触れることや聞くことができるほどでした。見て、聞いて、行うこと、それはそれは、とても、美しいものでした。

私たちはまず左側にいる人の方に向きました。そして右側にいる人の方に向きました。私たちは互いに抱き締め合いました。また、前の人、後ろの人、そして周りの人たちの所に行き、グルマールに代わって互いに感謝をしました。次には誰に感謝をしようかと首を伸ばしました。心を込めて、明確な意図を持ち、多大な親切心と優しさを持って、グルマールだったらこうするだろうと思い描きながら感謝を示すことは、素晴らしい体験でした。私たちは皆、理解され感謝されていると感じました。私たちそれぞれにとってあのよう感謝されることがどのような意味を持つか、それを言葉にすることはできません。

サツァングのこの時のことを思い出し、ある訪問セヴァイトはこう話してくれました。

感謝を与え、また受け取ることを通じ、私たち一人一人へのグルマールの愛と思いやりがとても大きくて計り知れず、とても強くてあらゆる空間に満ちていることを、私は身をもって体験しました。それは世界全体に届きます。自分の人生の中に今生きているグルがいることに、大きな感謝の気持ちを体験しました。

その日の残りをずっとこのようにして互いに感謝し続けることもできたと思います。しかし、スワミ・イーシュワラーナンダが席に戻るよう私たちを促しました。

席に戻るとスワミ・ジはグルマールの方を向き、言いました。「ありがとうございます、グルマール、2018 年のメッセージ「サツァング」を。そして、どんな瞬間にもサツァングを体験する方法を教えてくださいありがとうございます。お誕生日おめでとうございます！ 私たちはあなたを愛しています！」

サツァングの力を味わい、互いへの贈り物としてグルマールの感謝を示す間に私たちが体験した心と心のつながりを味わいながら、私たちは静かに席に着きました。

それから、スワミ・アカンダーナンダが演台に立ち、サツァングの次のとても気持ちの良い要素を紹介しました。瞑想です。

思い出すでしょうが、2018 年のバースデー・ブリス(誕生日の至福)の月にグルマーイが与える美德、サッドグナ・ヴァイバーヴァを私たちは毎年学んでいます。そして毎年、グルマーイは彼女の誕生日に特別な美德を与えます。

スワミ・アカンダーナンダは、これらのサッドグナについてのダーラナーに私たちを導きました。そして、感謝という美德について話し、特にグルマーイが 今年の誕生日の 2018 年 6 月 24 日 に与えた美德であるカルマンヤターについて、詳細な解説をしました。

スワミ・ジによるダーラナーの後、私たちは皆、数分間にわたって瞑想しました。シッダ・ヨーガの瞑想では、私たちは、深い静けさ、深い沈黙を認識します。その認識は私たちが覚醒している状態で起こるすべての活動の重要な部分 です。私たちはそれを存在の基盤として体験します。その意識を強化し、私たちのすべての務めとやりとりの中にその意識が確実に現れるように、私たちはシッダ・ヨーガのサーダナーを行います。

さて、サツァングのその次の要素は、私たちがとても心待ちにしていたものでした。覚えているでしょうか、6 月 23 日にグルマーイがシュリー・ニーラーヤにいるすべての人に、誕生日のお祝いのサツァングのスケジュールを準備するよう招いたことを。グルマーイはあることを希望しました。それは、サツァングで品のある冗談が語られることです。そうすれば、皆が彼女の誕生日に素晴らしい実践をすることとなります。それは笑いです。それはグルマーイに代わって私たち皆が互いに与え合う誕生日の贈り物になります。

この部分は、マリカ・マクスウェルとギリ・バラオーナの二人の若者が、笑いについての引用を発表することで始まりました。マリカとギリの二人は、長年しっかりとした自律と献身の心を持つ

て、タルナ・ポーシャナ部門でセーヴァーをささげています。タルナ・ポーシャナは、世界中の子どもたちや、若者、家族のための教えと学びのイベントを統括する部門です。

マリカとギリは、次の引用を読み始めました。

「笑う時、あなたは神を垣間見ます」

「笑いは、魂から放たれる太陽の光です」¹

「幸せだから笑うのではありません——笑うから幸せなのです」

三つ目の引用が読まれているちょうどその時に、1973 年からシッダ・ヨーガの教えを実践している訪問セーヴァイトのウルミ・バットが、マリカとギリに向かって片手を振り、決然とした様子で闊歩(かつぽ)して行きました。「ちょっと！ ちょっと！」と、ウルミは大声で言いました。「あなたたちに質問があります」

これには、参加者たちはすっかり驚かされてしまいました！「ウルミ・ジ、何でしょうか？」と、マリカとギリは好奇心に駆られて尋ねました。

ウルミ・ジは尋ねました。「なぜ、スワーミ・クリPPERナンダは窓の外にバターを投げたの？」

「分かりません」。マリカとギリは答えました。「なぜ、スワーミ・クリPPERナンダは窓の外にバターを投げたのですか？」

「なぜって、スワーミ・クリPPERナンダは、バターが飛んでいくのが見たかったからですよ！
[訳注: 英語の butterfly=バタフライ(チョウ)と、butter=バターと fly=フライ(飛ぶ)を掛けてい

¹ Quotations (from first to last) by Merrily Belgum, Thomas Mann, and William James.

る]」。そして、ウルミは芝居がかって両腕を頭の上に高く羽ばたかせ、チョウのまねをしながら、シュリー・ニーラーヤの大きな窓の方に向かって歩いて行きました。

こうして笑いの波が起こりました。その波は、次の10分間にたくさんの品のある冗談が語られる間、どんどん、どんどん大きくなりました。冗談を語る4、5人から成るグループがホールの正面にやって来ては冗談を言い、終わってすぐに退散するとまた次のグループがやって来るという様子でした。それは、キーボードの生き生きした反復楽句とドラマチックなドラムの連打、そしてもちろん笑いが挟まれながら、途切れなく続くコメディーでした。

短い冗談があれば、長い冗談も、そしてすべての年齢に合った冗談がありました。それらは、波のように何度も押し寄せてきました—— 私たちの笑いのように。

「大海はどうやってお互いにこんにちはを言うのでしょうか？」

「分かりません。どうするのですか？」

「彼らは wave(ウエーブ)するんですよ！」

[英語の wave(ウエーブ) には「波立つ」と「手を振る」という意味がある]

「良い商品だけを生産する工場(ファクトリー)を何て呼びますか？」

「何、何？」

「満足です(サティスファクトリー)！」

[英語では「工場」を factory といい、「満足のいく」という語は satisfactory で、
中に factory が含まれる]

「なぜ数学の本は悲しかったの？」

「なぜ？」

「それは問題でいっぱいだったからだよ！」

「この間、私は6歳の息子と家の庭に座っていた。そう、一緒にしていた作業の手を休めて、ただゆっくり座って雲が浮く空を眺めようと決めたんだ。すると息子が突然、『お父さん、どうして僕たちはここにいるの？』と言ったものだ」

「何と深い質問だろう」と、私は思った。「この子は生の意味を知りたがっている！」

「そうだね、息子よ、空間と時間のねじれから宇宙が形作られ、それが生命を生み、生命が生まれた後に人が誕生した。そしておまえも生まれたんだよ。わかるかな？」

「よく分かんないよ」

「じゃあ、別の言葉で説明し直してみようか……」

「そうじゃないってば、お父さん。どうして僕たちここにいるの？ 1時間前にお母さんを迎えに空港に行くんじゃないかったの？」

「私の夫は何か勘違いしているんだと思うわ」

「なぜ？」

「昨夜、彼に『なぜ揺り籠に見知らぬ赤ちゃんがいるの？』って聞いたのよ。すると彼はこう言ったの。『だって、おまえは私に赤ちゃんを替えるようにって言ったじゃないか！』」

「change the baby の文字通りの意味は「赤ちゃんを替える」だが、
慣用句で「赤ちゃんのおむつを替える」という意味」

「これからステージに上がる人に対して、『Break a leg (頑張って)』と、皆が言うのはなぜだと思う？」

「分からないよ」

「どの演劇にも Cast(キャスト)が付き物だからさ！」

[英語で頑張っては、Break a leg と言い、文字通りの意味は「足を折る」]

[Cast には「配役」と「ギブス」の意味がある]

「純金のスープの作り方を知っているかい？」

「知らないよ」

「24 本の carrot(ニンジン)を加えるんだよ！」

[ニンジンは英語で carrot=キャロット、

純金=24 金の単位は英語で karat=カラットで、発音が似ている]

「ハーレービルの町にできた新しいレストランのことを聞いた？ カルマっていう名前なんだ。メニューはなくて、自分の行いにふさわしいものが出てくるんだって」

[カルマには「因果応報」の意味あり]

「おばさんは、どこにいても私たちを見下(みお)ろしているわ」

「まあ、そんな風に思うのはとてもいいわね」

「あら、彼女は死んだわけではないのよ。いつも見下(みくだ)しているってことよ」

「ミス・コーエン、支払ってくれた小切手が戻ってきてしまいました」

「ドクター、私の関節炎も戻ってきたわ」

「ビジネスマンはオフィスに入り、壁を塗る未熟な便利屋を見つけた。この便利屋は、暑い夏の日
に 2 枚の重いパーカを着ていた。これが少し奇妙だと思い、ビジネスマンは便利屋に尋ね
た、『なぜあなたはこのような暑い日にこれらのパーカを着ているのですか? 』」

「『ああ、私はただこのペンキの缶の指示に従っているだけです。それにはこう書いてあります。最高の結果のためには二つのコートを使ってください！ 』」

[英語の coat=コートには「上着」の意味と「塗装」の意味がある]

「どのように木は、インターネットに接続するの？」

「どう？」

「login(ログイン)して」

[英語の log=ログは「丸太に切る」という意味]

「私は皇帝アクバルだ」

「そして私はビールバル、彼の賢明で信頼された大臣です」

「さあ、ビールバル、おまえに質問がある。何年も何年も、実際に何十年も私たちはこのシヴァ・ジ王を探していて、そしていまだに彼を見つけることができていない。それはなぜだ？」

「とても簡単なことです。私たちがムガル人だからです、グーグルでなく」

「アーサー王の時代に、騎士の一人は税金を集めた」

「彼の名前は？」

「サー・チャージ！」

[発音が似ている英語の surcharge(サー・チャージ) は「料金を課する」という意味]

全員が40代のゴルフ仲間のグループが、どこで昼食を取るかを議論した。ついに、ゴルフコースに近く、ウェーターとウェートレスが迅速で有能だからという理由で、彼らはスミシー食堂で会うことで合意した。

10年後、50代になって、ゴルフ仲間は再びどこで昼食を取るかを議論した。ついに、料理とサービスが良く、スポーツ中継を見るテレビがあるという理由で、スミシー食堂で会うことで合意した。

10年後、60代になって、ゴルフ仲間は再び会って、どこで昼食を取るかを議論した。全員一致で再びスミシー食堂に決めた。なぜって？ 駐車場が無料で、価値のある料理だから。

10年後、70代になって、彼らは再びどこで昼食を取るかを議論した。ついに、車いすに対応していて、平和に食事できるという理由で、スミシー食堂に決めた。

10年後、80代になって、友人たちはどこで昼食を取るかを議論した。ついに、一度も行っただけという理由で、スミシー食堂で会うことで合意した。

「そして、男は農夫に尋ねる。

『すみません、お宅の土地を横切ってもよいですか？

そうすればぐるっと遠回りしないで済むので。

私は4時20分の列車に乗らなければならないのです』

農夫は言った。『どうぞ。

そしてもし私の雄牛があなたを見つけたら、あなたは4時5分に着くだろう』

「フレンチフライ(フライドポテト)は実際にはフランスで作られたものではないって知ってるかい？」

「いいえ」

「それはグリース(油脂)で作られた」

[Greece(ギリシャ)の英語の発音は「グリース」]

「オーケー、歯のないクマを何と呼ぶか？」

「グミクマ」

[お菓子の「グミ」と gummy＝ガミ(歯茎だけの)を掛けて]

「一人の男が自分の家で座っていると、突然ノックの音を聞く。彼はドアを開けると、地面の上にカタツムリを見る。彼はカタツムリを拾って、できる限り遠くにそれを投げる。1年後、その男は家にいて、またノックの音を聞く。ドアを開くと、またカタツムリがそこにいるんだ」

「同じカタツムリ？」

「同じカタツムリ。彼はカタツムリを拾い、そしてカタツムリが言う。『これまでのことは何だったんだ？』」

「レタスとトマトの競走について聞いたかい？」

「いいや」

「ああ、まあ、レタスがもちろんリードした、そして

トマトはその後思った、ケチャップを改善しよう」と

[「ケチャップ」と「キャッチアップ(追い付く)」を掛けて]

「だから、鳥はなぜ病院に行ったの？」

「分かりません」

「tweet-ment(さえずり)を得るため」

[tweet-ment＝トゥイートメントと「トリートメント(治療)」を掛けて]

冗談の語り手の一人は思い出を語りました。

私たちのほとんどは舞台に立ったことなどありませんでした。そして私たちの幾人かにとっては、人前に立って冗談を語ることなど自分の心地良い領域からかなり外れていました。でも、

このチャンスにイエス！と言うのをためらう人はいなかったと思います。私たちは喜びを表現し、笑い、そして他の人を笑わせ、そして何より、敬愛するグルマーイが私たちに望んだ形で誕生日を祝いたかったのです。私たちは用意ができていたし、ささげる熱意でいっぱいでした。

ある訪問セーヴァイトは言いました。

グルマーイが笑うのを見て、ホールにいる皆が笑っているのを見回して、そして自分も笑っているのに気づいて、私の全存在がほほ笑んでいることが分かりました。私の存在全体が本当に幸せでした。それは変容の体験でした。笑うことによって、私は心の中にいつもある喜びとつながることができました。私は自由を感じました。私はそれ以来、笑いを歓迎する努力をし、そして自分でもっと笑うようにしています。

そして、これはあるスタッフメンバーが言ったことです。

グルマーイの誕生日以来、笑いについて熟考していく中で、私は笑いの底辺には偉大な至福があると理解するようになりました。この至福は静かでありながら生き生きとし、夜に浜辺で見られるきらめくヒトデの生物発光のようです。私がメッセージの講話の中のグルマーイの教え——真理に「立ち止まり、つながる」こと——を思い出す時間を取るなら、いつでも自分の幸せの点を見つけることができます。それは実際、何の努力もいりません。

私たちは、この時点で誕生日のお祝いは完結したと感じました。

私たちは、そこで受け取るべきものはもうすべて受け取ったと感じました。

私たちは、一つの家族だと感じました。

私たちは、グルマーイの誕生日の希望を満たしたことに達成感を感じました。

私たちは、至福の大海に浸ったと感じました。

時は静止しました。

しかしすぐに、シュリー・ニーラーヤを覆っていた繊細な静けさから、私たちは声を聞きました
…。



© 2018 SYDA Foundation®.著作権所有。

続く…